

公衆衛生看護援助論I

必須 開講年次：3年次後期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：公衆衛生看護活動に特徴的な援助方法の基盤となる基本的な理論、知識および技法について学ぶ。特に、特定の集団に特徴的な問題を解決するための援助方法、個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法について理解を深める。また、地域における看護職の機能と役割を理解し、地域ニーズに対応した保健活動の展開と実践方法について学ぶ。

■**到達目標**：①公衆衛生看護活動（行政、産業、学校）の目的、目標、役割、機能を説明することができる。
②公衆衛生看護の対象となる地域の人々の特性を理解し、セルフケア能力を高めるための効果的な援助（健康相談、健康診査、家庭訪問、地域組織活動）を説明することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎清水 光子・櫻井 繭子・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

- 第1回 保健活動の手段：保健指導・健康相談・健康診査・家庭訪問
- 第2回 地域看護活動における家族
- 第3回 母子保健活動
- 第4回・5回 成人保健活動
- 第6回 高齢者保健活動
- 第7回 難病保健活動、障害者保健活動
- 第8回 精神保健活動
- 第9回 健康危機管理（災害保健活動）
- 第10回 健康危機管理（感染症保健活動）
- 第11回 産業保健活動
- 第12回 産業保健活動（ゲストスピーカー）
- 第13回 学校保健活動
- 第14回 学校保健活動（ゲストスピーカー）
- 第15回 まとめ

■**教科書**：標準保健師講座2. 3 /（医学書院）
国民衛生の動向 /（厚生統計協会）

■**参考文献**：保健師業務要覧 / 日本看護協会監修（日本看護協会出版社）
家族看護学 理論と実践 第3版 / 鈴木和子他（日本看護協会出版社）
産業看護学 / 河野啓子（日本看護協会出版社）
学校保健マニュアル / 衛藤隆他（南山堂）

■**成績評価基準と方法**：定期試験70%、授業態度20%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	目標①	目標②		
定期試験	◎	◎	試験問題の60%以上を正解していること	70
提出物	○	○	提出物を提出していること	20
授業態度	○	○	授業、演習への積極的な取り組み	10
出席			2/3以上の出席は欠格条件	欠格要件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論II、公衆衛生学、保健医療福祉行政論I・II、疫学I、公衆衛生看護技術論、ヘルスプロモーション活動論、公衆衛生看護学臨地実習I・II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：個人・家族・集団・地域全体の健康増進を目的とした保健師活動の展開方法を学びます。日常生活を基盤に包括的、予防的視点をもって学修に臨んでください。